# 温かい目で見守りを

島津 教恵

六十五歳以上のうち、七人に一人がなると言われている認知症をもっとよく知りたいと思っていたところ、親しくしている八木かおりさんと升村さん、前田さんが講師の「認知症サポーター養成講座」が開催されると聞き、嬉しく聴講しました。

認知症は、いろいろな原因で脳の細胞が死んだり、働きが悪くなって障害が起こり、生活に支障が出ている状態(約六ヶ月以上続く)を言います。認知症の人への対応はまずは見守り、驚かせない(声をかける時は一人で、相手の視野に入って)。相手の言葉に耳を傾けゆっくり対応し、急がせない。相手の目線に合わせてやさしい口調で自尊心を傷つけないこと。

認知症になっても、住みなれた場所で、馴染みの人に囲まれて暮らすのが幸せなので、地域の助け合いが大切です。介護されている家族へ一言「大変ですね」のねぎらいの言葉が重要となります。

特別な事をするのではなく、認知症を正しく理解して、偏見を持たず、温かい目で見守る事が大切な支援となります…と懇切丁寧に教えていただき、受講した印のオレンジリングをいただきました。

一度の受講で入口に立ったばかりですので、オレンジリングに恥じないよう、これからも「認知症」について関心を持って進みたいと思っています。

認知症について解説してくださった八木、前田、升村さん(左から)

# 豪雨被災地へ見舞金

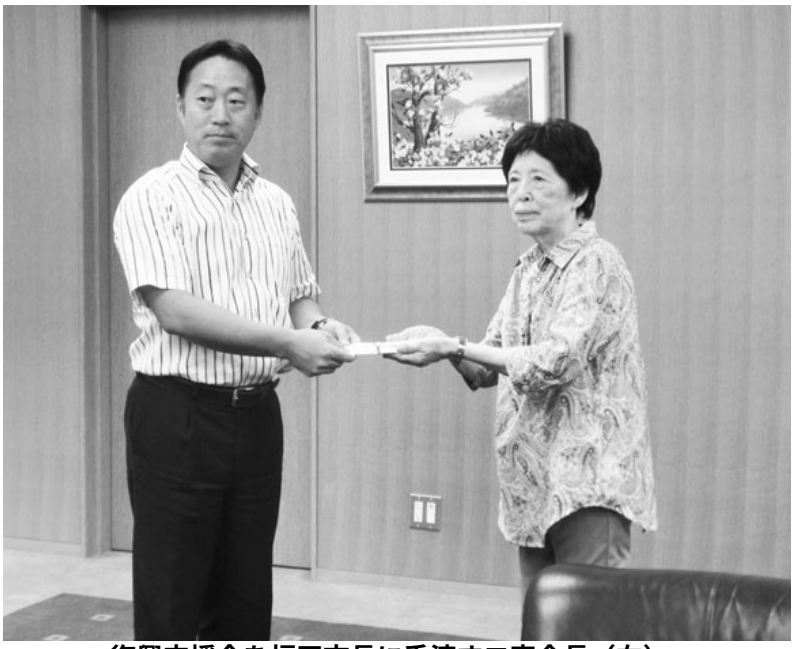
弥生会

八月二十七日、二宮会長をはじめ代表八名が、岩国市役所を訪れて、今年七月の萩・山口地区の集中豪雨被害へのお見舞い金として十五万円を日赤岩国支部長の福田岩国市長へ託しました。

日赤岩国支部を通じて、被災者の元に送り届けられるとのことでした。皆様にご報告いたします。

浄財は、弥生会会員の会費と役員有志から寄せられたものです。

災害が起きた後、私どもも、すぐにでも現地に駆けつけて片付けや復興のお手伝いをしたかったのですが、女性ばかりで足手まといになるばかりだろうと考え、「お見舞い金を」ということになりました。



復興支援金を福田市長に手渡す二宮会長(右)

# 皆様に感謝します

舘 澄子

空を見上げ、雨が降り出さないよう祈りながらの「岩国祭り」でした。

弥生会は、今年もプラザホテル前に出店致しました。多くの会員の皆様方のご協力を得て、たくさんの品物を並べることが出来、リピーターを含め、多くのお客さんで大盛況でした。

出品して頂いた方、お買い上げ頂いた方、本当にありがとうございました。

平成二十年から出店し、毎年十万円を超える収益を上げ、今年は十一万千四百四十円でした。

これまで収益の一部は「#８００番事業」や、その年の自然災害に遭われた地域に義援金として届けるなど、重要な活動資金になっております。来年も、どうかご協力のほどよろしくお願いいたします。

皆様の協力で集まった品々を販売した私たちのコーナーは大盛況となりました